



日本聖公会婦人会 2021年10月22日発行 ニュースレター No. 73

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 2-1-8 日本聖公会大阪教区事務所内
TEL 06-6621-2179 FAX 06-6621-3097

「その大いなる恵みによりて」



大阪教区
司祭 ジョイ 千松清美

「主よ、願わくは御民の心を励まし、喜びて主の御わざにたより、その大いなる恵みによりて御助けにあずかることを得させたまえ」（『1959年祈祷書』降臨節前主日の特祷）

日本聖公会婦人会の推薦により、神学校入学の1か月前の2008年2月末に国連本部での第52回女性の地位委員会と同時に開催された国際聖公会女性ネットワークの会議に参加しました。同年6月には、大阪で開催された日本聖公会婦人会の会長会でその参加報告をさせていただきました。ふり返ると会議の内容の重要さをほとんど理解せず、初めて観るもの、会う人、経験することにドキドキ、わくわくして興味本位で2週間の日程を終わったように思います。しかしこの学びと経験は、神学生のと時から司祭となった現在まで、私の考え、行動する方向性の土台になっていると思います。教会生活、社会生活、家庭生活など様々な場で抑圧を感じる、あるいは生きにくいと感じる女性の問題が沢山あることに目を向け、教役者として働かせていただくなかで、広い範囲で様々な人、場で抑圧や生きにくさを感じることは起こっていると受けとめる視野の拡がりの始まりとなりました。またこの会議参加を勧めてくださった大阪教区婦人会の数々の方々の励めの言葉とお顔は今も記憶に残っています。それは励ましと信頼と将来の期待に満ちたものでした。皆様の期待に沿える自信はありませんでしたが、力強く後押しをしてくださったことがとても嬉しかったことを覚えています。

私自身は女性であること、また女性の教役者であることで抑圧されている、生きにくいと感じることではないのですが、これまでに数回、女性の聖職者だからと心無い言葉を向けられて傷つくことがありました。そのような時は身近な女性の教役者や信徒の方に話し、慰めと励ましをもらいます。またすべてのことにおいてそうですが、自身でどうしても出来ない問題は神様に解決してもらおうほかないと思いますので、私の心を探り、私の中に自身を傷つけるような心があるかないかを見てください。そしてあなたが示される義の道へとお導きくださいと祈ります。後になって、その導きは平安や解放感となって与えられることに気づかされます。どのような時も私の側には助け手となってくれる女性たちがいて、日本聖公会婦人会、教区婦人会の方々は、背中を押して前に進めるようにお支えくださっています。神様の恵みに感謝です。

（石橋聖トマス教会牧師、東豊中聖ミカエル教会・庄内キリスト教会管理牧師）

教区婦人会から

北海道教区

会長 神林直子

主の平和がありますように。

コロナウイルス感染症拡大で緊急事態宣言が出ています。第 39 回（定期）総会も文書総会になりました。

総会礼拝もこの宣言下の中、中止すべきではないかとギリギリまで迷いました。

植松主教様、池田チャプレン、大町司祭の助言をいただき、9月1日に札幌キリスト教会にて聖餐式を持つことができました。聖職の方々と役員のための少人数ではありましたが、各教会婦人会から送られました代祷、病氣療養者、逝去者のお祈りを礼拝堂でお献げできましたこと感謝です。

まだまだ先の見通せない今の状況ですが、いつか笑って皆様とお会いできますようにとお祈りいたしました。

神様 平安が訪れますように
どうかお力をお与え下さい。



東北教区

会長 梅津庸子

コロナ禍の中で教区婦人会役員会会議は Web で、と言いたいところですが、集まる回数を最小限に時間も 1 時間内に効率よく話し合えるよう、討議内容、会議資料を事前に配り、目を通してから臨むように務めました。教区内の婦人会、個人会員との連絡はアナログで、手紙・FAX が主流です。



「広畑お茶会」でフレイル予防体操

さて、東北教区内の婦人会のコロナによる規制解除後の働きについてです。東北教区東日本大震災被災者支援プロジェクト主催で、当初から婦人会も協働してきた「広畑お茶会」と呼ばれる集まりがあります。被災して当時仮設住宅にいた方々と今も続く月 1 度の集まりですが、中断に次ぐ中断でしたが 100 回目を目指しています。

震災で大きな打撃を受け再建した、石巻十三浜産の「わかめ」の販売。以前、感謝箱献金の支援先だった「難キ連」に文房具などの支援物資を送っていましたが、集まる作業が出来次第再度送りたい。教会近隣の高齢者との、月1度手作りお弁当での昼食会。聖歌を歌うことも制限されていましたが、近隣の教会と「聖歌を歌う会」を開きたい。祈りのパートナーとして、震災の時は共に祈り合い、支援作業をした東京教区の姉妹教会と、再びよき交わりの時をもちたい。活動の再開、実現の時も近いのではと思います。

「難キ連」支援物資を呼びかけるポスター
(2019 年)

難キ連におくる ～12/1
(難民移住労働者問題キリスト教連絡会)

支援物資のお願い

前回も皆様にご協力頂き大変感謝しております。
今回も出来る範囲で結構ですのでよろしくお願い致します

レトルトカレー、レトルト食品、インスタントコーヒー、紅茶(パック)、切手
ボールペン(プラスチック製)、便せん、封筒、ノート、クリアファイル、
(文書類は使用後のもの、バラのものでもOKです。)
KDDI デレフォンカード(使用後でも使えるものOK)
NTTデレフォンカード(未使用)、ギフト券、金券(商品券、図書券ら)

☆2階ホールに収集箱があります。 婦人会より

北関東教区



会長 林 潤子

長引くコロナ禍の中、特に何の事業も出来ないまま任期の2年間も終わろうとしています。このような状況ですが、今年度より宣教協働区・伝道教区へ移行して今後5年を目標に東京教区との新しい歩みを検討し始めた教区の動きに伴い、教区婦人会もこれからの「あり方」について考えなければならない時が来ています。

これまでの長い年月教区婦人会がひとつひとつ地道な努力で積み重ねて来た大切な事々をどうしたら実情に合った「か

たち」でこれからも続けて行くことが出来るのか、そして更に大きな広がりを持って次につなげて行くことが出来るのか、共に考え、知恵を出し合って準備していきたいと思っています。

よき導きが与えられますように祈りつつ……。



横浜教区

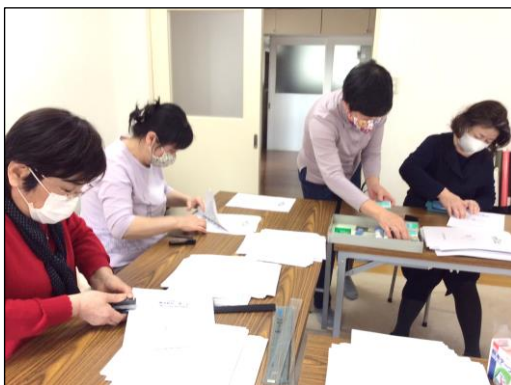
会長 黒田則子

横浜教区では教区婦人大会を一年おきに開催してきました。婦人信徒と教役者が 100 名ほどホテルなどに一泊し、講師のお話を聞いて学び、親睦を深めてまいりました。役員はそのため一年前から宿泊場所を確保し、講師を探して依頼し、かなり大変な準備が必要でした。

しかし、昨年役員を引き受けた頃、同時にコロナ感染が拡大していき、いつものように行うのは難しいだろうと考えて、代替りの案を考えてきました。

その中で横浜教区婦人会から感謝箱献金の献金先として申請して承認された「ガンバの会」の働きを知ってみよう、また共に祈るときを持ちたいということで、テゼの黙想と祈りの集いを主宰していらっしゃる植松功兄をお招きすることで役員が一致しました。

実際に集まるのは難しいだろうと考え、Zoom を使って行います。そのための技術担当を柏聖アンデレ教会信徒の蘆田信裕兄や市川聖マリヤ教会の吉田毅兄、日暮直子姉が快く引き受けてくださり、本当に助かっています。婦人会とは言え、男性の方も仲間に入って共に働いていることに、婦人会の将来を見るような気がします。



「総会報告」の製本中（2021 年 3 月）

この2年間は千葉県が役員の当番ですが、緊急事態宣言が度々出され、役員の集まりもなかなか難しいものでした。ただ幸いほとんどの役員がLINE を使っていたので、連絡や日程調整が簡単にできました。何度かはLINE 会議もしました。そのうち大会の実行委員を決めて、その会議はZoom で開くようになりました。これも初めは参加できない、声が聞こえないなど手間取りましたが、時間が経つにつれ慣れてきてスムーズに行くようになりました。

大会が終わったらすぐ、来年1月の総会の開催方法を考え、資料作りや婦人会便りの作成などを始めます。この2年、コロナのために例年とは違う働き方を取らざるを得ませんでしたが、それはそれで役員皆で知恵を出し合い、話し合い、新しい道を探ってくることができたと思います。すべてのことに主の導きを見る思いがしています。

中部教区

会長 赤川真理子

教区婦人会は 2013 年に「中部教区婦人会 100 周年記念大会」を安曇野で開催したのを最後に休止中です。今は愛岐、長野の伝道区（新潟は休止中）ごとに開催しています。

今回婦人会（総称）のある 5 つの教会に教会、婦人会の様子を書いて頂きました。

★名古屋聖マタイ教会・・・現在主日礼拝は休止中です。昨年夏より主日礼拝は Zoom により配信されています。クリスマス、復活日の聖餐式は参集の上、礼拝に与る事が出来ました。礼拝に参集できても行事、愛餐会は昨年から全くできていません。婦人会の皆様には会費、感謝箱献金等ご協力頂いています。

★愛知聖ルカ教会・・・聖餐式は教会メンバー限定の Facebook で配信しています。コメントやいいね！ボタンから一緒に礼拝をお献げしているお恵みに励まされます。礼拝後の昼食、茶話会も昨年 3 月から中止しており淋しい限りです。9 月は 80 歳以上の方へカードを送る予定です。

★豊橋昇天教会・・・クリスマス、イースターの礼拝はミサだけで茶話会になりました（これが大事です）。婦人会の集まりは 2 回ぐらいで、小さな輪になって婦人会の祈りを皆で献げて 30 分程度で解散です。毎年行っていた「婦人会親睦会」も行えず寂しく感じています。

★新生礼拝堂・・・クリスマスは飾り付け、カード作り等、持てる力を発揮して「かえでの会」のパワーを感じることが出来ました。イースター礼拝は休止でした。被献日に「かえでの会」の総会を開催しました。今年は世界祈祷日、シュロの十字架作り、献花当番などをつなげていくことが出来感謝です。

★長野聖救主教会・・・今年のイースターは礼拝のみ、道行く人に見て頂こうとガラス越しにたまごのオブジェや絵本の飾りつけをしました。9 月の「敬老のつどい」は昨年、今年とも「ちらし寿司」の祝会は中止。昨年は有志でカードとタッティングレースの十字架を作って 75 歳以上の方に送りました。（今年は教会と聖堂の写真入りのカードです。）



敬老の方々へ送ったカードと
タッティングレースの十字架

京都教区

婦人会事務局 小林格子

長引くコロナ禍で、京都教区婦人会の代表者会は昨年同様、書面議決での開催となりました。今回、議決書に込められた皆さんの様々な思いを受け止める中で、書面議決の恵みも感じました。それは、来年の大会について、事務局が提案した二通りの開催方法を、各教会でじっくり考えていただけたことです。結果は、懸案事項の組織や行事のスリム化の提案が採用され「従来の1泊2日の日程ではなく、日帰りの大会」、代表者会は事前に書面議決で終えて、大会の内容も「共に祈り、分かち合う」に絞られました。久々に皆で集うことができそうな来年の大会の中で、私たちが抱える課題を分かち合い、行く道が示されることを願っています。

この秋に、2年余りをかけて編纂された『ささえられて』という京都教区婦人会の近年（1988～2012年）の活動史をまとめた冊子ができあがりました。対面でなく手紙のやり取りだけが続く中、何とか事務局の思いを発信しようと、事務局だよりを出し、HPにも載せていますが、その最新号にはこの冊子を取り上げています。

事務局会議は、引き継ぎも含めてほぼZoomでした。対面で2回だけ集まれた心あたたまる時間の貴重さを共有しつつ、オンラインの利便性も享受しています。

多くの方々が困難の中におられ、教会を含めた社会活動が停滞しているコロナ禍の中で、本当に大切なことが示されていると感じる時があります。旧来に安住せず、変化に対応して今後の婦人会のあり方を考えていきたいです。

**大阪教区**

会長 鈴木久美子

大阪教区婦人会は、各教会から代表者（3年任期）を1名選出して代表者会を、月1度開催しています。今期は新代表者会が7月に始動したばかりですが、緊急事態宣言の延長で会議もままならず足踏み状態です。印刷物を郵送して、情報を共有出来るようにしています。

今年の聖ルカ日(10月18日)の修養会は、石橋聖トマス教会にて「気がつけば 共に歩みたもう主」という主題で畑野研太郎氏（芦屋聖マルコ教会信徒）のお話をお聞きする予定です。昨年は中止となりましたのが、今年は人数を制限して開催できるように準備を行っています。

大阪教区婦人会の奉仕活動として、1981 年に開所された聖ヨハネ学園特別養護老人ホーム「ミス・ブール記念ホーム」での喫茶奉仕を 1983 年 6 月から開始し月 2 回行ってきましたが、現在は月 1 回になり、2020 年 1 月まで継続されてきました。しかし、コロナ禍で感染拡大防止のため 2022 年 3 月までは休止状態です。今後、どのような新しい関わり方が出来るかが検討課題です。



また、守口聖オーガスティン教会に併設されている難病とたたかう子どもと家族のための滞在施設「ぶどうのいえ」で掃除のために用いる使い捨て布や必要な品を集める事、名古屋の笹島キリスト教連絡会事務局からのタオルなどの提供の呼びかけには、沢山の献品が集まりました。

奉仕の気持ちは十分に持ちつつも、体力不足で思うように動く事が出来にくくなって来ているのが、各教会婦人会の現状のように思われます。

2024 年には大阪教区婦人会成立 100 周年を迎えます。記念事業を計画・実施するための準備委員会を立ち上げたばかりです。その頃には、マスク無しで多くの皆さまと共に礼拝が出来るようになっていくことを願い祈っております

神戸教区

広島復活教会オリーブの会会長 木本慈子

主の平和がありますように

突然のニュースレターへの原稿依頼があり、コロナ禍における婦人会や教会の現状を書いていただければという趣旨でした。

私たちの教会では平常の時は主日礼拝の合間のウイークデーには、「聖書のつどい」、「教会刺繍の会」、「ヨガサークル」、「映画会（主日の午後）」、「子ども食堂」など、信徒以外の方々や近隣の方々とともに過ごす時間を持っていました。しかし、まん延防止等重点措置や度重なる緊急事態宣言下で全てが行えなくなりました。主日礼拝でさえ休止、オリーブの会（婦人会）の役員会や会員の皆様が集う例会も然りです。コロナ禍の中での教会と信徒のつながりをどのように保持させるかはとても重要な課題です。方法の一つとして、必要な事柄はグループ LINE を通しての配信や女性連絡網でスマートフォンへの一斉配信で伝え、皆さんからの応答を聞くというやり方です。配信が受けられない方には電話連絡で



永野拓也新司祭の按手式

担当者から必要事項が伝えられます。主日礼拝は YouTube でのライブ配信で聖餐式の全容が司祭様方の熱心な努力によって各家庭に配信され、司祭様の司式と同時進行で礼拝を守れることは大きなよこびです。80 代・90 代近い方も配信に詳しい信徒さんや司祭様からやり方を教わって積極的に受信できるようになれているのもうれしいことです。

もう一つとても嬉しい出来事がありました。コロナ禍のため二度の延期を余儀なくされていましたが、永野拓也新司祭の按手式が、昨年 9 月 21 日（日）、皆の強い願いにより、勤務地広島復活教会で行われ、私は幸いに礼拝の場におりましたが、人数制限もあり多くの方は YouTube での礼拝に参加し、新司祭様と共に喜びあいました。

このような時ですが、神様が共に歩んで下さることを信じ、感染拡大の一日も早い終息を願いつつ with コロナの時代を信仰の喜びと絆を大切に歩んでいければと願っています。

沖縄教区

会長 真栄城美子

コロナが終わったら、教会で会えますね！
コロナが終わったら、食事会をしましょう。
コロナが終わったら、〇〇さんのお見舞いに行きましょう。
コロナが終わったら、遊びに来てください。

一年以上もこんな会話が続く事を誰も予想していなかったでしょう。

沖縄教区は礼拝休止が続いています。それぞれの場でお祈りはできますが、主日礼拝に出席する事の楽しみを奪われている信徒がいらっしゃるのではと、その方々の胸中をお察しします。

前年度の各教会婦人会活動はコロナ禍で計画が実施できなかったという報告がありましたが、日頃は婦人としてできる学びの会や奉仕（オルターギルド、清掃、会食の世話）、また献金について奉献先の実態の学びや実施など、高齢化と会員減少の中で色々工夫しながら活動しているようです。



2021 年 1 月 役員引継ぎ

教区婦人会は会合は持てませんが、会計さんが会費納入の確認をして下さり電話やメールで報告を受けいています。当初は各教会で交流と収益を目的のミニバザーを開催してもらい年度末に報告会をしたいという提案がありましたが、内容について煮詰める段階で礼拝休止となってしまう活動が止まっていますが、早く再開したくコロナ収束を待っているところです。

感謝箱献金事務局(コア)が関西に移動しました！

6月に開催された第26（定期）総会後第2回会長会で、武藤謙一首座主教から感謝箱献金事務局(コア)の新メンバーが任命されました。チャプレンは出口 崇司祭(京都教区下鴨基督教会牧師)、運営委員長は井田涼子さん(京都教区)、そしてコアスタッフは日暮直子さん(横浜教区、留任)、森本愛子さん(京都教区)、中尾由紀子さん(大阪教区)の3名です。

※『ガリラヤのほとり 36号』の紹介コーナーをお読みください。



任命式にて

「感謝箱献金とともに」

感謝箱献金事務局 運営委員長 井田涼子

2007年に活動を開始した日本聖公会婦人会 感謝箱献金事務局は14年目を迎えました。この度、事務局が関東・横浜教区から関西に移転しました。この間、私たちは東日本大震災被災者支援や国内外の女性や子どもたちの命を守る活動の支援を、感謝箱献金の存在に励まされながら続けてくることができました。昨年から続く世界同時に起きたコロナウイルスの感染爆発の中でも休むことなく続けられ、感謝箱献金は来年、創立130年を迎えます。

現在、事務局は運営委員長である井田宅に置かれています。移転の際に受け取った未使用の感謝箱献金箱の束（約2000箱）を預かりました。この感謝箱を皆さんのもとへ届けることが1番目の仕事。そして役員会と協力して「感謝箱献金の祈り」を通じて全国の会員の皆さまと繋がっていること。さらに日本聖公会の中にこの祈りの活動を広げていきたいと願っています。今回の『ガリラヤのほとり 36号』はそのことを意識して編集しました。

皆さまのお祈りとご協力をお願い致します。感謝箱献金で支援したいお献げ先の情報をお寄せください。また楽しい活動になるアイデアも募集しています。

コアスタッフは私を含めて4名です。会えない時はSNSで連絡を取り合いながら、一歩ずつ進めています。これからどうぞよろしくお願い致します。

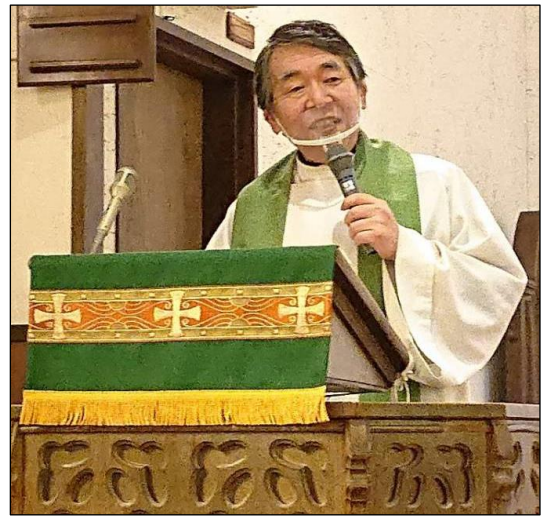


会長会を振り返って

日本聖公会婦人会 副会長 マリヤ 井上美津

第 26(定期)総会後第 2 回会長会が、最初の予定より 1 週間遅れで、緊急事態宣言解除直後の 6 月 22 日(火)～23 日(水)に、大阪聖ヨハネ教会を会場に開催されました。

午後 1 時より、開会聖餐式の中で感謝箱献金(コア)運営委員長・スタッフの任命式が守られました。今年も、新型コロナウイルスの影響で、会議出席者は京都教区・大阪教区のみで、オンライン参加の各教区から寄せられた代祷は、役員・出席者が心を込めてお祈りをお献げさせて頂きました。



午後 3 時からは、昨年とは異なり、議場での参加者とオンラインでの参加者とを結んでのオンライン会議となりました。

9 教区婦人会代表・本会会長・本会副会長の点呼、井上恵美子会長の開会宣言、チャプレン内田望司祭のお祈り、続いて首座主教武藤謙一師からは「一度失くしてしまうと、もう一度一から始めるのは困難な事。細くても良いから続けて行く事に意義がある。」とのお言葉を、日本聖公会婦人会担当主教・大阪教区主教磯 晴久師からは「アフリカ・パレスチナに目を向けてお献げしている事は素晴らしい働きで、日本聖公会の中でも唯一ではないでしょうか。」とのお言葉と挨拶を頂戴し、井上恵美子会長の挨拶、議長選出と会場書記指名の後、議事に入りました。



今回の議案審議は、議案第1号から議案第4号までが役員会と感謝箱献金事務局(コア)運営委員会との共同のお献げ先の議案、議案第5号は役員会と東北教区婦人会から、議案第6号は横浜教区婦人会から、議案第7号・第8号は中部教区婦人会から、いずれも感謝箱献金のお献げ先に関する件で、やはり厳しく苦しく生きづらい現状であることの報告が其々行われました。議案第9号・第10号の補正予算を含めすべて賛成多数で可

決・承認されました。その後、任期を終える感謝箱献金事務局(コア)チャプレン・運営委員長・スタッフのお働きへの感謝の動議が出て拍手をもって承認され、全ての議事が終了しました。

夕の礼拝、会話を控えつつの夕食、そしてサンプールームでサイディア・フラハの手工芸品のバザー販売が行われました。

午後7時からは役員会で審議して了承した「被献日献金活用実施申請」の教区婦人会枠（横浜教区婦人会・神戸教区婦人会・京都教区婦人会）・コア枠・神学生枠（10名）についての報告が行われました。

首座主教武藤謙一師より「神学生の書籍購入に際し、申請用紙をそれぞれの所属教区主教に目を通してもらってはどうか?」「日本聖公会婦人会からの書籍申請の説明文の用紙の見直しの検討はどうだろうか?」などのアドバイスを頂き、「被献日献金は、寄付や募金ではない。心をお献げしている。」の発言と共に、被献日献金の目的・学び・支援・応援について、改めて再確認する時を持つことが出来ました。



就寝前の祈りを終え、雨の降る中、タクシーで宿泊先(ホテル京阪淀屋橋)に向かいました。

翌日、午前9時からの朝の礼拝の中で、感謝箱献金(コア)チャプレンの任命式が守られました。

午前9時45分からの「分かち合い」では、前もってアンケートに答えて頂き、まとめられた資料を元に、短時間ではありましたが、各教区の現状・要望・意見・質問などを伺い、話し合いの時を持ちました。会員の減少・高齢化・献金をお献げする事の困難さ等は共通の悩みですので、2年前に閉会され個人会員として活動されている「九州教区女性の課題担当者」から最初にお話を伺いました。「組織を離れる事は大変で、守られていた事を実感している。有志グループが、献金を中心に繋がっている。」との話を伺い、質問を交えつつ、数分程度で各教区の現状を伺いました。

井上会長は、「日本聖公会婦人会の組織は、日本聖公会婦人会があって教区婦人会があるわけではなく、教会の女性たちがいて、教会の婦人会ができて、教区婦人会があって、日本聖公会婦人会があると思う。皆さんがおられるから、日本聖公会婦人会という組織ができ、小さな働きを寄せ集めて活動していると思っている。」このようなオンラインでの話し合いの場が、年1～2回あれば？との希望の声には、「この場に皆が集まって輪になって話し合うことができれば、もっと意見が出しやすかったのではないか」という思いもある。Zoomでの会議の難しさをあらためて感じている。」「集まって話し合う中に、ヒントが隠されていたり、新しい気づきがあったりする。」役員会の運営については、「ルールが細かく記載されていて、それに基づいて役員会は動いている。」被献日については「被献日献金の当初の目的は、女性の聖職者を望んでのことだった。20数年前に女性の司祭が誕生してからは聖職者や聖職者を目指す人たちを支えるということに働きが変わってきた。」感謝箱献金についても、「それぞれの自宅で『うれしい時には感謝箱』に献金し、少しずつ集められたものが日本聖公会婦人会に寄せられてきた時には大きなものになっている。これらが日本聖公会婦人会の働き。」と締めくくられた。

閉会礼拝では、婦人の祈り、主の祈りを共に唱え、主教磯 晴久師の祝祷で会長会を無事に終えることが出来ました。

※感謝箱献金のお献げ先の詳細は、『第26(定期)総会後第2回会長会 決議録』、『ガリラヤのほとり 36号』、または日本聖公会婦人会のホームページをご覧ください。



編集後記

秋の風が心地よく感じられる季節になりました。

今回は写真とともに役員会を紹介します。

日本一高いビル「あべのハルカス」のすぐ近くある大阪教区館。

私たちは毎月ここで役員会を開いています。役員6名は全員が違う教会に属しており、最初の役員会は「初めまして」でスタートしました。その後、チャプレン内田望司祭様のご指導のもと、回を重ねるごとに互いの理解も深まり、それぞれのキャラクターが上手く合わさった、和やかで大阪らしい(?) 雰囲気が出来上がってきたと思います。

コロナ禍での活動は初めての経験でしたが、私たちの任期もいよいよ3年目に入り、既に来年の総会の準備も始まっています。どのような形で総会を開催するのか、私たちは一つ一つのことを大切に考え、丁寧に進めていきたいと思っています。

(会計 テレジア 植原久美子)



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。
『ニュースレター』、『ガリラヤのほとり』も掲載しています。
ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>

